

第50回日本薬剤師会学術大会参加報告書

筑西店 沼倉 貴史

日時：2017年10月8日（日） 9日（月）

場所：東京国際フォーラム JPタワーホール&カンファレンス

感想

今回取り組みを行う上でご協力頂いた関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成28年度診療報酬改定より、長期投薬情報提供料と服薬情報等提供料が統合されました。保険薬局内で得られた情報（飲み忘れ、飲み誤り等の服薬アドヒアランスの情報、副作用・アレルギー・体質等の情報、複数科受診・多剤併用等の情報、医薬品による患者のADL、QOLへの影響のassessment、それに基づいたcare plan、observational plan、educational plan、医薬品の保管状況など）を処方元の医療機関と共有する事により薬物療法の向上が考えられます。

今回服薬情報提供書を発行した48件の内容を精査しました。

自由討論の場では各方面の先生方とお話をする事ができ、相互に情報を共有させて頂く事ができました。これらの経験が、今後の業務に通じていく物だと強く感じました。

分科会は薬学教育実務実習の今後の在り方に関するワークショップに参加をしてきました。これは、学生5名と認定実務実習指導薬剤師5名が一つのグループとなり、現行のコアカリキュラムと比べ改訂コアカリキュラムについての良い点、問題点を話し合い、更に問題点について期限を含めて改善策を議論するワークでした。私のグループは3名の指導薬剤師と既に現行カリキュラムでのI期の実務実習を終えた5名の都内の薬系大学5年生とプロダクトを作成しました。他の3グループも同様にプロダクトを作成し、相互討論を行った後、4グループのプロダクトを作り、他の4グループのプロダクトと相互討論を行いました。

「後進の育成に積極的に取り組まない組織の将来は暗い。」

保険薬局は医療サービス業としての臨床業務に加え、薬学的研究、地域の子供たちそして薬学生の教育の場でもあります。これら3本の柱をしっかりと確立させ地域の皆様が安心して暮らせる様日々精進してまいります。

以上